



連携事例 36

R7.3

人と人とのつながりや、心の関わりを大切にした
地域交流拠点事業

～こどもを中心に繋がる地域の輪～



毎年恒例となっている、せんなり村主催
わくわく DAY (こども食堂)
クリスマス会の様子

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

・特定非営利活動法人せんなり村

■協働パートナー

(活動場所協力)

・幼保連携型認定こども園千成幼稚園

(周知協力)

・佐倉市企画政策課 ・千成自治会

(食材寄付、協力)

・佐倉ライオンズクラブ ・佐倉ロータリークラブ

・(株)ジョイネット

・(株)常磐植物化学研究所

(食材購入費支援)

・岩淵薬品(株) ・(株)ジィ・シィ企画

(フードバンク)

・(株)わくわく広場 ・JA ちば未来佐倉中央支店

・さくらあつたか食堂ネットワーク

(学生ボランティア)

・千葉敬愛短期大学

計 14 団体他地域住民の協力

■事業費

75 万円

■資金調達手段

助成金・寄附・利用料等受益者負担・

運営団体負担・その他

事業概要

地域に親しまれている乳幼児教育施設の園庭を活用し、こども食堂を展開。こどもの貧困対策への解決を目指しています。幼稚園は地域の拠点として誰もが訪れやすい場所であることから、親子で訪れる方や 3 世代にわたって夕食や昼食を食べて頂いています。周囲との連携や協力体制を築き、乳児から高齢者までの誰もが安心して訪れやすい拠点を目指し、地域の中で人と人との心が繋がっていきような新たなコミュニティを創出しています。

協働までの経緯

日本の6人に1人のこどもが貧困問題に直面している現状を知り、日本の社会問題となっているこの「こどもの貧困問題」に対し、せんなり村ではせんなり村だよりの情報誌などを通して市内公共施設などに配布し地元企業や地域住民への周知を行ってきました。こども食堂や居場所作り、地域の交流の場を展開し、乳児から高齢者まで誰もが安心して訪れやすい拠点を目指します。

こどもの社会問題を真ん中に、地域で活動をされている方々を線で結び、大きな輪となってこどもの貧困対策、共通した社会問題、課題解決を目指しみなさんと手を取り合って協働しています。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 活動内容(毎月1回 土曜日) わくわく DAY ふれあい食堂(こども食堂)の開催
 - ② 活動内容(毎月1回 土曜日) わくわく DAY 駄菓子屋さん(こどもの居場所作り)の開催
 - ③ 活動内容(毎月2回 土曜日) 地域コミュニティーサロン(地域食堂)の開催
- ※上記の他、長期休業中に習字教室、学習支援(こどもの居場所作り)せんなりフェス(地域交流事業)

主な協働パートナーとの役割分担

- 【NPO 法人せんなり村】主催 告知 周知 発信
- 【千成幼稚園】園庭開放 場所の協力 備品貸与
- 【ライオンズクラブ】炊き出し、食材提供、配付支援
- 【岩渕薬品】食材提供、配付支援
- 【常磐植物化学研究所】食材提供、配付支援
- 【ジョイネット】ランドセル・体操服・制服寄附
- 【佐倉市企画政策課】活動周知協力
- 【千成自治会】活動周知協力、ボランティア活動
- 【ジィ・シィ企画】ポイント付与、食材購入支援
- 【JA ちば未来佐倉中央支店】食材寄付
- 【千葉敬愛短期大学】学生ボランティア活動
- 【佐倉ロータリークラブ】食材寄付
- 【わくわく広場】食材寄付
- 【さくらあったか食堂ネットワーク】食材寄付

協働事業によって生まれた成果

- ・「こどもたちのために」という共通した目的へ取組を快く協力、支援して頂いています。また当日も多くの方々がボランティアスタッフとして参加頂きました。
- ・同じ佐倉市内の団体や企業が同日にこどもたちのために一緒にコラボレーションし一つの活動を行うことができ、地域のこどもこそ日本の未来であり、我々の宝ものであると話してくださいました。
- ・子どものためにと活動を展開することで、困っている人たちは、こどもだけではないこと。もっと

コラボのコツ!!

- ★この活動の一番の目的は何かをお互いに明確なビジョンを持ち、共通理解すること
- ★それぞれの役割分担を明確にし、当日までの準備や調整をしっかりと行うこと。
- ★それぞれの団体のコミュニケーションをはかり「こどもたちのために」という思いがそれぞれの団体や企業をつなぐバトンとなりました。
- ★周囲の会話、言葉をよく聞き何が必要かを考えました。

コツに関するコメント

持続可能な自分たちの身の丈に合ったそれぞれの無理のない支援をそれぞれが共通理解し、自分たちのできる範囲の中で活動できたのが良かったです。日本の将来、こどもたちのために集結した力、点と点が結びつき一つの大きな輪になったと感じています。

地域の中へ目を向けて、人々の声を集めたいとも感じました。

- ・子どもの笑顔が多くある地域は高齢者の笑顔もきっと増えていくのだなと感じています。地域の皆様とコラボレーション、協働、協力することで課題解決へのアプローチと新たな課題を見つけることができました。

今後力を入れていきたいこと

○こどもの貧困問題や、孤立、孤食といった貧困の連鎖は簡単には解決できないからこそ、継続が大切であり、地域内の一つ一つの力や思いを合わせてコラボレーションすることで、10の力も100の力になっていくと思います。より多くの団体、企業、行政と連携の輪を強固なものに。そして大きな輪を広げていきます。

○こどもの貧困の連鎖でもある、孤立や孤食など金銭面だけではなく地域との関わりも薄れてしまっている今、この問題はこどもだけでなく、高齢者も共通した問題であることがわかりました。年齢層だけに絞るのではなく、こどもと親子で気軽に参加できるわくわくDAYと、高齢者の孤立、孤独問題にもアプローチできるコミュニティサロン（夕食の部）をそれぞれ展開し始めました。仕事が忙しい対象の方も夜の夕食を地域の高齢者の方々と共に過ごすして地域の良さを感じて頂いていると思います。誰も取り残されない社会作りを目指しています。



協働事例プロフィール

【活動開始年】2018年

【活動のPR手法】SNS（Facebook、Instagram、LINE発信）、

せんなり村だより（広報誌発行）3000部（年2回発行）

【この事業で活用した補助金】R3～R5 内閣府「子供の未来応援国民運動 ネットワーク事業」助成金

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】千葉日報紙（2023年12月）、2021年キッズデザイン賞受賞（番号 210203）

【問い合わせ先】担当者：安川 裕樹 電話番号：043-485-3755

メールアドレス：sennarimura@gmail.com